

夏期研修・教研集会 活動報告

コスモスが秋風に揺られ、過ごしやすい季節になりました。健康教育委員会の8月9月の活動にご協力いただきありがとうございました。先生方と学んだ研修会の様子をお伝えします。

●夏期研修会 8月1日(木)「イチから始めるSOSの出し方に関する教育」



講師 長野県スクールカウンセラー・臨床心理士
高城 早苗 先生

(1) 高城早苗先生の講演

- ・SOSの出し方に関する教育の始まった背景と意義
- ・平成30年度モデル校での実践報告
- ・小学校で行う実践例(ストレスマネジメント)

(2) 情報交換 グループ討議

ワールドカフェ方式での情報共有

..... ご紹介いただいた資料

- 小学校向け紙芝居 「イライラしたときどうする？」10場面 遠見書房 2,057円~ + 送料700円

企画：かけはしストレスマネジメント研究会 kakehashi213@yahoo.co.jp

●参加した先生方より

- ・漠然としかイメージが湧いていなかったが、この研修に参加し具体的なイメージを持つことができた。
- ・SOSの出し方に関する教育はいろいろな方法があると感じた。本校では、養護教諭と保健師で実施したが、どの人が入ってもその人の立場から、より専門的な話を混ぜながら実施できることの良さがあると思った。時間的確保が難しい課題もあるが、とても大事な教育だと思うので、年間計画に位置づけていく必要があると思った。(養護)
- ・中学生を対象としたプログラムのお話でしたが、小学校での素地、捉えがあつてのつながりになると思った。自分の命の大切さ、自分のことも大切にするという点は、低学年のうちから大事に扱っていく必要があるなと感じた。小学校ではSOSをキャッチする意味では、常時一緒にいる担任が一番になる。養護教諭と連携していつでも情報交換できるようにしたい。(小学校担任)

今後の活動予定

一緒に学びましょう！ご参加ください！

健康教育授業研究会

- *日時 11月22日(金) 14:05~16:40
- *会場 茅野市立泉野小学校 5年教室
- *内容 「がん~正しく知って自分の生活を振り返ろう~」
- *講師 長野県教育委員会 保健厚生課 保健・安全係
指導主事 三井 将志 先生



10月4日付で各校へ開催通知を配布しました。校内で回覧をお願いします。締め切りは10月23日(水)です。

● 教研集会 9 / 7 (土) 分科会「健康教育」

教研集会が9月7日(土)に行われました。たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。3人の先生方にレポート発表をしていただきました。

分科会 レポート 「社会体育と子どもの健康」

永明小学校 飯島 あずさ先生

社会体育等学校外の活動の疲れから、授業ができずに保健室で休養を必要とする児童について、学校としてできるサポートや、保護者への働きかけはどうあるべきかについて発表していただきました。

様々な運動に触れることができる社会体育の良さも理解しながら、保健室で把握できる情報を大切に、子どもの心身の健康状態、体力、生活リズム、学校外の活動の負担について、学校・保護者・社会体育指導者が密に連絡を取る必要性を実感しました。

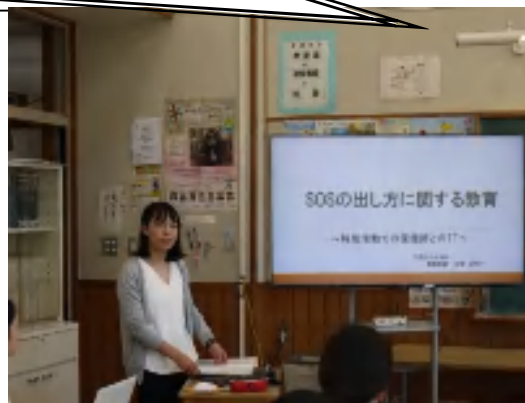


分科会 レポート 「SOS の出し方に関する教育～特別活動での保健師とのTT～」

下諏訪中学校 田畑 日向子先生

「SOSの出し方に関する教育」を、地域保健師とTTで実施した様子を発表していただきました。

「悩むことは悪いことではない」「成長に必要なこと」であることを理解し、自分の心のSOSを知ること、解決方法を考える授業でした。保健師さんからは、「信頼できる人に話をすることの大切さ、リラックス方法、相談機関の一覧、さらに「保健師自身が相談相手になる」ことを伝えてもらいました。「悩みがない」生徒には、周りの人のSOSに気づいて声をかけることもできると示しました。今後、保健師とのつながりが将来的なものになる工夫や、小学校から取り組むことでさらに自殺予防の意味が深まるため、全学校職員の共通理解や外部機関との連携を取りながら、できるだけ多くの人と関わりながら進めていく大切さを学びました。



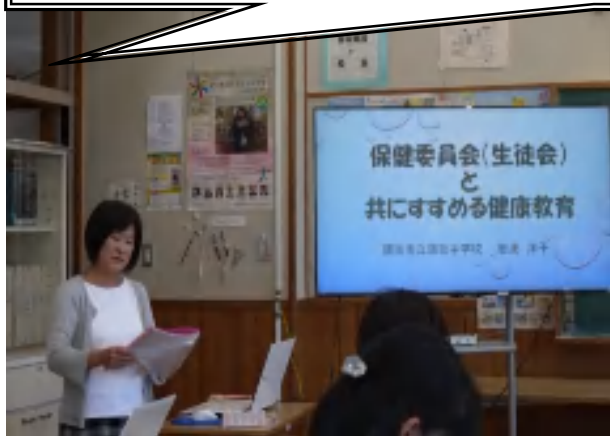
分科会 レポート 「保健委員会（生徒会）と共にすすめる健康教育」

諏訪中学校 岩波 洋子先生

PDCA サイクル（Plan 計画 Do 実行 Check 評価 Action 改善し次へつなげる）を基にし、学校保健の推進重点が生徒会の活動目標になるように設定して取り組まれた、過去5年間の活動を発表していただきました。

生徒が自主的に活動するには「やる気」を持たせることであり、そのための「楽しい」「おもしろい」と感じる活動を取り入れる工夫が必要。文化祭でのステージ発表や展示、メッセージビデオ、夏休み料理教室等、活動している生徒たちの表情は生き生きと輝いていました。

学校における保健委員会の活動（健康教育）は、個人から学校全体へ広げていく大きな手段となり得る。学校全体が健康を支援する環境となるよう、活動を深め継続していくことが個人の行動変容につながる。PDCA サイクルによる評価（C）をていねいに行い、次年度へつなげていくこと（A）に意義がある、とまとめられていました。養護教諭と生徒が同じ願いを持ち、同じ目標に向かって、共に深く関わって積み重ねた素晴らしい実践でした。



レポート発表してくださった先生方、本当にありがとうございました